「元輝学舎」せんだ通信 №３

児童川柳　「今朝もまた　元気いっぱい　あいさつだ」
児童四字熟語「苦心　気強」（苦労は心と気持ちを強くする）

平成 23 年６月２日　　～校長室だより～

東日本の震災の被災者の方にとって、子どもの笑顔とともに、音楽は元気と勇気を与えてくれているものの一つであるそうです。

本校では、５月 31 日に、伝統となっている音楽朝会がスタート。

今回は、５年生の二部合唱 ♪心に咲く花♪ で始まりました。他の学年の児童とともに東日本で被災している子どもたちにも思いを伝えようと、歌詞「・・・・ぼくには大切なきみがいるんだ。いつだってきみのそばにいたいよ・・・」を一小節一小節、心を込めて合唱しました。その合唱は美しくもあり、感動的な歌声でした。その後、全児童による大合唱が。５年生を範とし、広い体育館に響きわたる歌声は、人のぬくもりがたっぷりつまった、なにか敬虔さを感じる美しさがありました。

なかまづくりをすすめようと、ことばにある思いを探究する道徳の学習！

「なかま」「きずな」「友情」など、人とのつながりは、生活をより楽しくさせてくれます。そのつながりをもたせるものが、優しい「こころ」や「ことば」などです。

道徳の時間には、副読本などを資料とし、きずなや友情等の大切さを学んでいます。例えば、５年生では今回、金子みすずさんの詩『こだまでしょうか』を資料に道徳の学習に取り組みました。

授業では、先生から「金子さんは最後の・・・でどんなことばを書き記しているだろうか」の問いが。

児童からは「言っていること」や「経験していること」などの応えが。

こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと　　「遊ぼう」っていう
「ばか」っていうと　　「ばか」っていう
「もう遊ばない」っていうと　「遊ばない」っていう
そうしてあとで　さみしくなって
「ごめんね」っていうと　　「ごめんね」っていう
こだまでしょうか
いいえ　だれでも・・・

その後、先生から「この詩で温ったかい「ことば」とそうでない「ことば」ってあるかな」などの問いが続き、児童は、体全体で「ことば」から受ける情を感じ考えていました。その後授業は、友だちにかけてあげたい「温ったかいことば」を短冊に一人ひとり書き、結びとなりました。

☆短冊にまとめられた温ったかい「ことば」例
「ありがとう」「大丈夫」「すごいね」
「がんばったね」「仲良くしようね」
「ずっと（これからも）友だちだよ」
「ファイト」「ごめんね」
「一緒に遊ぼう」など

これからも、たくさん温ったかい「ことば」を使ってください。

「恕」の心が、５年・６年生の委員会活動に②。よい生活環境づくりに感動！

先号に引き続き自慢の委員会活動を紹介します。

体育委員会では、児童の外遊びや集団遊びを奨励するために、毎月１回～２回、昼休憩時に遊びの会を企画し行っています。今回第１回目が。「体育委員をつかまえろ」と名付けられたおにごっこで、運動場には大きな歓声と笑顔がきらきら輝いていました。「ありがとう！」